

岐阜女子短大 福本 慶子

さきに、本学会第八回総会において、被服の構造と題して、被服文化の環境的な要因として、歴史的、社会的なもの、風土的な条件とそれらが被服の成立に關与する方式等について述べたが、(1) 今回は、形づけられる被服独自の「場」としての要因について試論を述べたいと思う。被服技術は従来「よりよくつくられるための研究」と「よく教えるための研究」という側面から、とりあげられることが多かった。被服文化とそれを支える技術を、客観的に考察し、少しずつでも体系づけたいのが私の永年の願いである。最初の発表から8年を経て、その成果の遅々としていることを恥じるものであるが、(2) その間、服装史をまなびつつ考え、また、具体的な技術のうちで、手がかりを見出しながら思索したものをいくらかまとめたものである。(3) 成果を要約すれば、被服技術のうち、異質な三つの性格（造形性、構造的性、作業性）を指摘し、三つがからみあう造形のうち、被服技術が他の技術的造形と区別せられる、独自の場の要因として、固定、安定、懸垂、着脱、寛度等の基礎的要因を具体的に、歴史的衣のうちに論じ、それに多少の技術的、体系と分類を試みることを得たのである。